

令和 6 年 10 月 15 日

太田市議会議長 高田 靖 様

立憲民主党 岩瀬 僚

第 19 回全国市議会議長会研究フォーラム報告書

「主権者教育の新たな展開」

- 1 期日 令和 6 年 10 月 9 日(水)から 10 月 10 日(木)
- 2 場所 トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)
- 3 内容

■パネルディスカッション

- | | | |
|--------|---|--------------------------------|
| 井柳 美紀 | 氏 | [静岡大学人文社会科学部法学科教授] |
| 土山 希美枝 | 氏 | [法政大学法学部教授] |
| 越智 大貴 | 氏 | [一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事] |
| 渡辺 嘉久 | 氏 | [読売新聞東京社会教育ネットワーク事務局] |
| 遠藤 政幸 | 氏 | [盛岡市議会議長] |

■課題討議

- | | | |
|-------|---|----------------------|
| 河村 和徳 | 氏 | [東北大学大学院情報科学研究科准教授] |
| 白鳥 敏明 | 氏 | [伊那市議会前議長] |
| 諸岡 覚 | 氏 | [四日市市議会議員(第 83 代議長)] |
| 服部 香代 | 氏 | [山鹿市議会議長] |

主権者教育の新たな展開

概要

地方議会は、投票率の低下や無投票当選の増加など、議会への関心の低下や議員のなり手不足が深刻化、性別や年齢構成の偏りなどの課題を抱えている。そのため、令和5年の通常国会において、地方議会の役割及び議員の職務等の明確化などを内容とする地方自治法の一部改正法が成立するなど、現在では女性や若者など多様な人材の地方議会への参画促進に向けた環境整備が進められている。中でも、将来の地方自治を担うこどもたちに対する主権者教育の取り組みは重要であり、各地方議会の主権者教育に係る好事例の横展開を推進するために、パネルディスカッションや討議によって地方議会の課題を整理したうえで、その解決にむけた今後の方向性を展望する。

所感

主権者教育の現状において、各パネリストから報告があった。法政大学の土山希美枝氏からは「誰がための主権者教育」というテーマで、議会は主権者教育の「主体」か？という問題提起がなされた。政治的関心の低下、議員のなり手不足、社会や政治に参加する経験や地域への愛着を感じる機会の不足、市民と自治体議会の間にあるさまざまな隔たりを埋める処方箋として「次代を担う若者の教育」は魅力的に映るとしつつも、「高校生議会」でいえば高校生は、すでに選挙権のある市民がいる可能性がある集団であり、若き市民なのだから、若き市民の参加として捉える方が良いという主張であった。

実際に主権者教育に取り組んでいる一般社団法人 WONDER EDUCATION の越智大貴氏からは、「若者は政治に関心が特別低いわけではなく自分で国や社会を変えられると思っていない」ということを調査報告から結論づけた。日本の若者は海外諸国と比較すると自己肯定感が低く、自分の行動で社会や政治が変えられると思えないことが選挙に行かない要因であると分析され、議会の役割としては若者との交流の機会を増やし、「自分の意見が聞いてもらえる」と思ったり、「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やすことが必要だという提案があった。また、政治的中立への配慮を求められる学校においてもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる必要があるのではないかと問われていた。

本テーマは、私も学生時代から関心があり、大学生の頃に学生団体で活動していた経験があった。さいたま市の選挙管理委員会と大学生で構成する青年選挙サポーターとして活動していた。大学生の意識調査や、当時は成人式での選挙啓発イベントや選挙PR動画の作成などを行った。当時から高校生に向けての模擬投票や模擬立候補の取り組みは行われていたが、どこまで効果的なのか、継続性があるのか確信が持てない気持ちもあった。また、日本の場合、学生時代から就職活動が始まり、就活して社会人になった後は会社人(企業人)あるいは行政人になり地域との関りが薄れることで政治的な関心も薄れる傾向にあるように思った。

教育においては「政治的中立性」ばかりが求められて、政治的な関心を高くもっていると「少し変わっている人」と周りから見られてしまう同調圧力ののようなものも存在しているようにも思う。ただ、現職の地方議員であれば「自治体の地域のために熱い思いを持って動き、それを生業にしている」存在であるわけだから、その存在との接点を教育の機会として活かしていく高校側の工夫も必要なのではないかと感じた。



(フォーラム風景)



(盛岡市PR)